

実りある日々を送るために

始良・伊佐教育事務所長 上拂 博文

秋晴れの空が広がる「スポーツの日」、始良・伊佐地区のロボットコンテストを訪ねた。参加した中学生11組への課題は『輪のついたボール状のスポンジを制限時間内にパラソルハンガーへいくつ掛けられるか』。与えられた条件の下で造られた創造性豊かなロボットが縦横無尽に動き、スポンジ一つひとつを見事に掛けていく。しかしその一方では、思い通りに動かないロボットを前に、何度も試行錯誤を重ねる姿、「もっと良くできるはず」と挑み続けた日々があったと想像できた。そこに、学びの本質を見る思いがした。私たちはつい、結果や順位で成長を測ってしまう。けれど、真の成長とは“失敗しても、やめない”そのプロセスの中にある。挑戦を重ねることこそが、人を育て、心を強くする。

こども家庭庁の調査では、「今の自分が好き」と答えた日本の子供はわずか17.5%（他国の半分程度）。ユニセフの調査でも、精神的幸福度は38カ国中37位と低い。背景には「自分はうまくできない」と責めてしまう風潮がある。しかし、子供は本来、うまくいかない中でこそ伸びていく存在である。理解のまなざしと環境の工夫があれば、「困り感」は挑戦の芽に変わる。大切なことは、他者と比べることではなく、昨日までの自分と比べることだ。子供の幸福感を支えるのは、「ありのままの自分でいられること」、「自分で選び決められること」、「人の役に立っていると感じられること」、そして、「そばで支えてくれる人がいること」。子供が「やってみたい」と言ったとき、大人が「いいね、どうしたい?」と返す。その一言が、挑戦を楽しむ心と、自分を信じる力を育てていく。

収穫の秋。二人の日本人がノーベル賞を受賞した。「より良いもの」を追い求め、失敗を重ねながら新たな真理をつかんだ姿は、ロボットコンテストに挑んだ中学生と重なる。実りとは、成功という結果ではなく、あきらめず挑み続ける中で育まれた成長の、その先に静かに宿る。最後まで、輪をハンガーに掛けようとロボットと格闘していた中学生のように、私たちもまた、「もう一度やってみよう」と前を向く瞬間を重ねていきたい。子供の挑戦に「いいね」と声を掛け、「やったね」と笑顔で寄り添える大人でありたい。そうした関わりが、子供の心に小さな自信の輪を掛けていき、その輪はやがて、地域、社会へと広がり、未来を照らしていく。そんな“実りある日々”をこれからも皆さんと共に育んでいきたい。

インターネットによる人権侵害について

インターネットの普及に伴い、匿名性の悪用や情報拡散の容易さから、さまざまな人権侵害が問題となっています。被害がオンラインの中だけでなく、現実世界にも及ぶケースも少なくありません。現在、多くの児童生徒がSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を利用しており、誰もが被害者にも加害者にもなる可能性があります。だからこそ、正しいインターネット利用を促すことが大切であり、その基盤には人権が据えられる必要があります。インターネット問題は、どの校種においても喫緊の課題です。様々な機関等から配布される啓発資料を活用して、情報モラル、情報セキュリティへの意識高揚を図っていきましょう。

※ 日頃からのアセスメント（児童生徒の心身の状況を確認し把握すること）がとても重要です。児童生徒を見つめ、ささいな変化も見逃さないようにしていきましょう。

【参考資料】公益財団法人「人権教育啓発推進センター」作成
あなたは、大丈夫？考えよう！インターネットと人権（四訂版）



令和7年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善

○ 児童生徒質問紙と学力のクロス集計結果から考えたい授業改善の方向性

【算数・数学】 ※ 表内○数字は、①あてはまる ②どちらかといえばあてはまる ※ 数値は正答率

	質問項目	学年	①	②
16	(略)自分で学び方を考え、工夫することはできているか。(自己調整)	小6	62.1	57.1
		中3	53.2	44.5
32	(略)課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。(主体性)	小6	65.2	57.3
		中3	56.5	44.9
36	(略)分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか。(省察力)	小6	63.1	56.2
		中3	53.9	45.0

正答率で平均 8.2 ポイントの差あり

○ クロス集計結果を踏まえた授業改善

「子供たちに『問い』をもたせることで、学習への動機付けを図る。」(主体性)「学習形態や方法等を自己選択・決定させることで、責任をもって課題解決に取り組ませる。」(自己調整)「学習内容や方法等について振り返りを行うことで、メタ認知力を向上させる。」(省察力)このサイクルを回すことで、子供たちの学習を自己調整する力を高め、学習者主体の授業づくりを進めてください。

○ 1学期計画学校訪問での授業参観の様子について

上記クロス集計に係る項目は、学校訪問での授業参観の視点としています。授業参観における視点ごとの良さをまとめました。各学校でも様々な工夫がなされており、授業改善が図られています。下記記載の子供の姿とその裏にある教師の手立ても参考にしながら、より一層授業改善に努めてください。

(1) 主体性について

【子供の姿】	【子供の姿の裏にある教師の手立て】
○単元全体や本時の流れを理解し、黒板や学習計画表を確認しながら主体的に学習を進めていた。	○単元のゴールや学習計画表を子供と共有したり、ICT機器、板書、掲示物などを活用したりして、単元や授業の流れを明確に提示していた。
○実生活や生活経験と結びつけながら、学習内容に興味をもち、積極的に発言・活動していた。	○実生活での経験や季節の話題、ゲーム、写真、クイズなどを取り入れていた。
○問題の解き方を自分で考え、友達や教師に質問しながら粘り強く取り組んでいた。	○個別の実態に応じた課題やめあての設定、丁寧な個別指導を行っていた。

(2) 自己調整について

【子供の姿】	【子供の姿の裏にある教師の手立て】
○自分のペースや興味に応じて、資料や方法を選択し、課題解決に向けて工夫していた。	○学習支援アプリ、電子黒板など ICT を活用し、子供が自分のペースや方法で学習できるようにしていた。
○教え合いや意見交換を通して、考えを深めたり、理解を広げたりしていた。	○グループ学習や子供同士の意見交流の時間を確保し、他者の考えを紹介・比較する場面を設けていた。
○自分の目的に合った学習方法や学習形態を選択し、調べ学習に意欲的に取り組んでいた。	○個々人の学習状況を把握し、個別指導や支援を丁寧に行っていた。

(3) 省察力について

【子供の姿】	【子供の姿の裏にある教師の手立て】
○キーワードや「わがとも」等の観点を活用しながら、学びを自分なりにまとめていた。	○視点を示しながら、子供が自分事として振り返ることができるようにしていた。
○板書やノート等を活用し、学びの道筋を意識しながら振り返りを行っていた。	○板書や学習の流れを明示し、児童が学びの軌跡を理解しやすくしていた。
○協働学習での学びをもとに、自分のことについてしっかりと振り返りながら考えをまとめていた。	○振り返りの良さ(特に友達の良さについて)について価値付けを行っていた。

3つの柱で、笑顔あふれる学校づくり

働きがいを実感する
「授業改善」

- ・教員同士の対話による授業づくり
- ・児童生徒の学びの成果を見える化
- ・ICT活用等による授業準備の効率化

働きやすさを実感する
「業務改善」

- ・業務の見える化
- ・事務作業の効率化
- ・保護者対応等、チームで支える職場づくり

働く誇りを実感する
「服務規律の厳正確保」

- ・教員の使命感と責任感を高めるための研修の実施(当たり前を問いただす)
- ・ハラスメント対策の徹底と安全な職場環境の確保
- ・小さな違和感の発見と共有



シリーズ! 始良・伊佐教育事務所員が紹介する 私の元気の出る言葉②

「つまずく」は成長している証拠

これまでに何度も転勤があり、新しい部署に異動になりました。慣れない仕事で、ミスをして、落ち込むことも多かった私。自分はこの仕事に向いていないのではと自信をなくすこともありました。

そんな時、先輩が言いました。

「つまずくことは当たり前だよ。新しい環境に慣れるために必要なプロセスなんだ。大事なのは、つまずいた後にどう立ち直るか。つまずくことでしか見えないこともあるし、成長している証拠だから焦らずいこう。」

その言葉を心に留めて、少しずつ失敗から学び、挑戦を続ける毎日です。(T. Y)

令和7年度始良・伊佐地区 かごしまの先生スタートプログラム

臨時的任用教員等として働く人のためのフォローアップ講座

8月5日（火）、始良市立錦江小学校で上記講座に19人が参加しました。

研修Ⅰでは、始良市立始良小学校で通級指導をされている大塚佳子先生をお招きして、これまで実践されてきた内容をもとに、特別支援教育の視点を取り入れた子供への具体的な関わり等について講話をしていただきました。

また、研修Ⅱでは、授業動画を活用して、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりの手立てについてグループによる意見交流を行いました。

その後の「質問タイム」では、勤務に関することや学習指導・生徒指導等で悩んだり、不安に感じたりしていることをグループで話題にして、担当の指導主事と一緒に考える機会をつくることができました。

参加者の感想

本日の講座を行ってくださった先生方に心より感謝いたします。復帰へ向けて前向きに努力していきたいと思います。

久々に教育に携わる研修会に参加しました。今の教育現場のことが分かり、とても良かったです。



研修Ⅰの様子



研修Ⅱの様子

『業務改善の推進』 創造的余白づくり — 全員で最初の一步を踏み出す

令和7年度業務改善実施校モデル事業の指定を受けた霧島市立国分西小学校では、9月29日（月）に民間コンサルタント会社「先生の幸せ研究所」の若林氏を講師に招き、校内研修を実施しました。働き方改革の目的である「教育の質の向上 — 質の高い学びと業務負担の軽減の両立 — 」という考えのもと、教職員が主体的に業務改善に向き合いました。

研修は、ワークショップ形式で進行。日課表、評価、校内研修、宿題、保護者対応など、現場の教職員から出されたテーマについて、グループごとに価値と課題を整理し、改善案を考えました。最後は、「押しプレゼン」と題し、各グループが考えた提案を発表。講師から「すぐに取り組めるものは、まず試してみることが大切」との助言を受け、研修後は出された提案の中から実行可能なことについて、早速試行に取り組んでいます。

★国分西小学校 中村校長のコメント★

業務改善の案が、先生方からたくさん出てきて嬉しいです。できるものから皆で話し合い、皆が納得して進めることが大切だと思っています。

★教職員の声★

自分たちでテーマを出し合い、考えることで、現場に合った改善策が見えてきました。すぐに試してみたいことも多く、前向きな気持ちになりました。

今後は、同様の研修を市町教育委員会と協力しながら、地区内の小・中学校へ展開し、全ての学校が自走できる業務改善を目指していきます。



【作戦会議～意見を交わす教職員～】

真剣な表情の中にも時折笑顔が見られ、前向きな空気が広がっていました。

安全・安心な学校づくり（学校安全の充実）について

● 声掛け、つきまとい等の地区別認知状況（R7.1～8月末、県警統計資料）

県内順位	警察署	件
4	霧島	38
7	始良	28
9	伊佐湧水	14

始良・伊佐地区内での声掛け・つきまといの発生件数は、県内においても高い状況にあります。

児童生徒の安全を守るために、通学路の確認や安全マップ等に街灯の有無、人気の少ない場所を示すなど、日頃の安全指導を継続していく必要性があります。

【学校・家庭・地域の取組】

- 「いかのおすし」の励行
- 外出時は複数行動、防犯ブザー等の携行
- 人がいない場所・見通しの悪い場所への接近の禁止
- 暗くならないうちに早めに帰宅
- 「子ども110番の家」の積極的活用
- 外出時の家族への連絡（「いつ頃まで、どこで、誰と、何をする」）
- 事案認知後の警察署への通報

「児童・生徒への声掛け等に対する安全指導の強化について（依頼）」



（左）「いかのおすし」のチラシ

（右）「子ども110番の家」ののぼり旗

学校支援専門官による学校探訪

学校の教育活動の状況を直接感じて、「学校をさらに盛り上げるためにはどんなアドバイスができるのか。」を自問自答しながら、楽しく学校を訪問しています。【学校は楽しい場所、安全安心な場所】を目指して、各学校は伝統を大切にして、子供たちのためにある教育活動を展開していることをとても嬉しく思います。訪問した学校から感じた始良・伊佐地区の学校や子供たちの様子を数例紹介します。

【始良・伊佐地区の学校・子供たちの「良さ」について】

【学校は、】

- 学習環境が整っている。
- 学校課題に対して立ち止まることなく前向きに解決を目指している。
- 地域と一体となって学校づくりを進めている。
- 若手教職員を全校体制で育成している。
- 学校行事や生徒会・児童会活動に子供たちの意見や考えを反映している。

【子供たちは、】

- あいさつを率先して実践している。
- 横断歩道で、止まった車に感謝の気持ちを示すお辞儀をしている。
- 自転車通学生はヘルメットをしっかりと着用している。
- 休み時間、校庭・校舎には笑顔・楽しそうな声があふれている。

